

高野山時報

令和4年(2022)6月21日◎

第3574号

目次

―読み物―

「観心寺と金剛寺」展への想い…永島 全教…3
旧正御影供の御影堂拝観方法変更は何だったのか?…宮地 剛士…4
寄贈書紹介…4
高野山大学は今⑦④
高野山大学ゆえの英語教育の挑戦…森本 敦子…5

―ニュース―

高野山の重要厳儀 豎精論議を厳修…6
真言宗各派総大本山会 人権推進講習会…7
山階派第77次定期宗会 全7議案を承認…8
高野宗兵庫宗務支所 特別伝道大会開催…9
高野宗第六地域伝道団 伝道ボスター制作…10
兵庫・海雲山善光寺 本尊を御開帳…11
高野山学園評議員会 決算案等を審議…12
総本山金剛峯寺 高野山夏季大学…14
和歌山県高野町 こども観光大使任命…15

京都国立博物館

「観心寺と金剛寺」展

両寺の寺宝調査成果を公開

京都市東山区の京都国立博物館では、特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺―真言密教と南朝の遺産―」を来る7月30日から9月11日まで開催する。

京から高野山に至る街道の合流地点として栄えた大阪府河内長野市には、真言密教の古刹である高野山真言宗遺跡本山観心寺(永島全教主住職)、真言宗御室派大本山天野山金剛寺(堀智真座主)があり、地域の信仰や文化の中心を担ってきた。両寺は、南北朝時代に後村上天皇の行宮として楠木一族をはじめとする南朝

勢力の拠点となった。

同展では、「日月四季山水図屏風」(国宝・室町時代・天野山金剛寺蔵)や「伝宝生如来坐像」(重文・平安時代・観心寺蔵)などの名宝と共に、平成28年度から令和元年度にかけて同館が実施した両寺の文化財調査の成果として、新たに発見された寺宝を公開展示する。

会期―前期7月30日～8月21日、後期8月23日～9月11日。開館時間―午前9時～午後5時30分(入館は閉館30分前まで)。休館日―月曜日。観覧料―一般1200円、大学生600円、高校生300円、中学生以下無料。

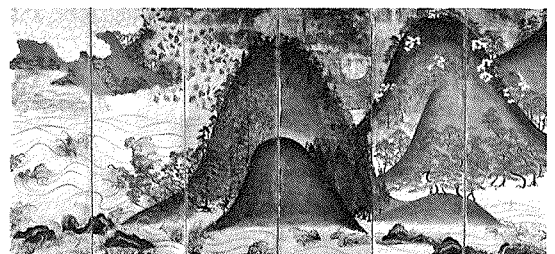
また、期間中は左記の記念講演会の開催を予定している。「観心寺・金剛寺と南北朝動乱」



重要文化財 伝宝生如来坐像
平安時代(9世紀) 大阪・観心寺蔵 画像提供・公益財団法人美術院 撮影・金井杜道

7月30日、講師―尾谷雅彦元河内長野市教育委員会。「観心寺・金剛寺の歴史と文化財調査」

8月20日、講師―井並林太郎同館研究員。「観心寺・金剛寺の金属工芸」



国宝 日月四季山水図屏風(右隻)
室町時代(15~16世紀) 大阪・天野山金剛寺蔵



特別展 河内長野の霊地

金剛寺と
 観心寺と
 真言密教と
 南朝の遺産と

2022年(令和4年)
 7月30日(土)～
 9月11日(日)



特別展 河内長野の霊地

観心寺と金剛寺

真言密教と南朝の遺産

7月30日(土)～9月11日(日)

京都国立博物館

**展覧会名
会期**

特別展 河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—
2022年(令和4年)7月30日(土)～9月11日(日)

**会場
交通
休館日
開館時間
観覧料**

※会期中、一部作品の展示替を行います。
 前期：2022年7月30日(土)～8月21日(日)
 後期：2022年8月23日(火)～9月11日(日)

京都国立博物館 平成知新館 2F、1F
 公共交通機関(JR、近鉄、京阪電車、阪急電車、市バス)をご利用ください
 月曜日
 9:00～17:30(入館は閉館30分前まで)
 一般1,200円 大学生600円 高校生300円

**共催
後援**

中学生以下は無料です。障害者手帳等(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳)をご提示の方とその介護者1名は、観覧料が無料になります。大学生・高校生の方は学生証をご提示ください。キャンパスメンバーズ(含教職員)は、学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日料金より400円引きとなります。

京都新聞
 河内長野市、河内長野市教育委員会、歴史街道推進協議会

本展は、事前予約は不要です。会期等は今後の諸事情により変更する場合があります。随時、京都国立博物館ウェブサイトや公式Twitterにてお知らせいたしますので、ご来館の際は最新情報をご確認ください。

京都国立博物館特別展

「観心寺と金剛寺」展への想い

高野山真言宗遺跡本山観心寺住職 永島 全教

京都国立博物館で令和四年七月三十日から九月十一日まで「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺展 ―真言密教と南朝の遺産―」が開催されます。

京都国立博物館が実施した両寺の文化財調査の成果を公開する機会として、従来知ら

れた国宝・重文に加え、新たに発見された寺宝も多数出展いたします。

河内長野は日本に仏教が最初に根付いた奈良飛鳥から見て太陽の沈む西方極楽の方向であるため、早くから仏教の教えが広がりました。また役行者が修行した金剛山の麓で古くから修験道の影響も受け、平安期からは高野山と京都や大阪をつなぐ高野街道の拠点として栄えました。中世には観心寺・金剛寺共に南朝の行宮となり多くの戦火に巻き込まれましたが、寺院と地元の人達の絶え間ない努力により多くの貴重な文化財が長い間護られてきました。

現在でも「女人高野」として有名で行基により開山された御室派大本山の天野山金剛寺には、国宝五件と重要文化財二十九件、観心寺には国宝三件と重要文化財三十五件が現存しています。

観心寺は、元慶七年の縁起資財帳(国宝)や応永元年写承和四年の観心寺縁起資財帳(重文)等によると、約千三百年前の西暦七〇一年に役行者により雲心寺という名で開山。弘法大師が唐から帰国後、勤操大徳を頼って和泉の施福寺におられた西暦八〇八年に、高野山のちようど真北にあたる当地に国家と民の厄除けを願い、七星如意輪マンダラを立体的に配置し寺名を観心寺としました。六臂の如意輪観音は弘法大師が唐から日本に初めて伝え、観心寺の本尊は現存している六臂如意輪観音像の中で最古で唯一の国宝です。秘仏として祀られています。現在は毎年四月十七

十八日に御開帳があります。境内の七星如意輪マンダラは、当初は如意輪観音を中心に南に訶梨帝母天、時計回りに北斗七星が配置されていました。現在を中心の如意輪観音(国宝)の右に不動明王(重文・秘仏)、左に愛染明王(重文・秘仏)、まわりに八観音(重文)・六体は霊宝館に所蔵)と四天王(重文)が追加された観心寺独自の配置です。この配置は観心寺金堂(国宝)が後醍醐天皇の命で楠木正成が奉行となり建てられた南北朝時代に、河内長野に所縁が深い文観坊弘真が監修したと思われる。この折衷様式として有名な金堂は大坂府下最大の国宝建造物で、現在の高野山壇上伽藍金堂のモデルとなっています。

その後、弘法大師は瑜伽の道場である高野山から布教の拠点である京都に向かう第一歩目の役割を担うため、一番弟子の実恵として真紹(宗叡)に観心寺の伽藍整備を任せました。当時は一日に約十里(四十キロ)を歩き、高野山(観心寺)川原寺(飛鳥)東大寺(東寺)を行き来されたと言われています。

弘法大師の「弘法利生」の役割を全うするために、実恵は多くの弟子たちに大師の教えを伝え残しました。東寺長者を務めた後、承和十四年六十二歳で観心寺で入滅されました。境内には入定墓が現存し墓前にある本願堂でお祀りしています。弘法大師の真言密教の道を興した功績を認められ、安永三年に道興大師の名を賜りました。

その弟子真紹も法を弘げるため、京都東山に見返り阿弥陀仏と紅葉で有名な永観堂・禅林寺(江戸時代に浄土宗に改宗)を建立しました。入唐八家の一人でもある宗叡も教えを関東にまで弘め、芝の増上寺(浄土宗)の前身となる寺院を建立されました。

その約五百年後、観心寺中院の檀家であった楠木正成は八歳から十五歳まで当寺で仏教や学問を学びました。目先の利益や現世のみに執着するよりも、民衆のため国のため信念を貫き、利他の精神を体現した楠木正成と楠木一族の生き方には、弘法大師の父母・衆生・国王・三宝の恩に報いる「四恩の教え」が影響しています。

そのまた五百年後の江戸後期には、『太平記』の講談やベストセラー『日本外史』の影響で楠木正成が日本中で大人気となりました。吉田松陰や坂本龍馬、西郷隆盛、近藤勇たちが最も尊敬していた楠木正成の生き様には、観心寺で学んだ弘法大師の利他の教えが根付いていたのです。

「古人の跡を求めず 古人の求めしところを求めよ」これは弘法大師の『性霊集』を典拠とした松尾芭蕉の名句です。文化財遺産を護持管理することは勿論大切ですが、「形ある遺産」に込められた仏様や弘法大師、道興大師をはじめ歴代尊霊の「弘法利生」の「見えない想い」を引き継ぎ、観心寺に求められた役割を果たすことが出来るよう、今後も日々精進して参ります。

どうぞ、この機会に京都国立博物館で開催される「観心寺と金剛寺展」にご来臨賜り、河内長野で大切に護られてきた多くの文化財遺産から、弘法大師をはじめ多くの人々の想いを感じとって頂けたら幸いです。

(大阪府河内長野市) 合掌